

ひらつか

創業支援



ヘッドマウントディスプレイを付けると、目の前に3D映像の街並みが広がります。パソコンの上にあるセンサーが人の動きを読み取り、映像の中を歩く疑似体験ができるのです。このソフトは、創業間もない市内の企業が開発しました。



目次	1～3面… 特集 創業するなら平塚で…市内で創業した企業や市などが取り組む創業支援策を紹介します。
	4～7面…募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ
	8面…ヒラツカルチャー「博物館モノ語り」



平塚市の人口と世帯数 <平成27年1月1日現在()内は前月比>	
人	口 256,970人…(-33)
世帯	数 106,319世帯…(+27)

◎発行 平塚市 ◎編集 秘書広報課
〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号
☎0463-23-1111 ☎0463-23-9467
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>

創業するなら平塚で

独自の技術やアイデアで創業する方を応援します——。
市は平塚信用金庫や平塚商工会議所などと連携し、
創業を目指す方や創業間もない方への支援を進めています。

問 産業振興課 ☎21-9758

ラッキースoft

宝町11-1
平塚フジビル
☎23-7830

危険を疑似体験

駐車場に止まっていた自動車が急発進する。路地から自転車飛び出してくる。

街の中には、さまざまな危険が潜んでいます。歩行中に起こる危険を疑似体験できるシミュレータがあります。足踏みや腕振りをすると、実際に街の中を歩いているかのように、画面に映し出された3D映像が進んでいきます。

「新・交通安全シミュレータ」を開発したのは、交通や福祉分野などのシステムをつくっているラッキースoft。市が創業支援する「Hiratsuka

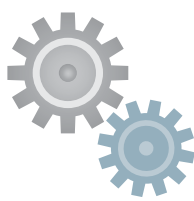


1月17日の岡崎小学校のイベントで、多くの児童が体験した。

フレッシュビジネス認定コンペティション」(3面囲み記事)で、昨年度認定されました。開発のきっかけは、ラッキースoft創業者の三田村勉さん(左上写真)の身内が交通事故に遭い、けがをした経験です。「平塚は県内でも交通事故が多いと聞いています。少しでも事故を減らし、現状を改善したいと思うようになりました」と語ります。

新・交通安全シミュレータは、画面の中にさまざまな状況を再現できます。雨や雪などの天候、昼間や夕方、夜間などの時間帯のほか、疑似体験する身長も変更でき、大人が子どもの低い目線を体験できます。

「疑似体験で多くの訓練を



積んでおくと、危険な場所の把握や、事故に遭った時の対応に役立ちます」と強調する三田村さん。事故の防止だけではなく、当事者になった時に適切に行動できるよう、判断力を養うこともできます。

シミュレータでは、足踏みや手を前後に振る動きをセンサーが読み取っていま

す。映像は、液晶画面やプロジェクターに映せるほか、ゴーグル型の装置の内部に映像を映し出すヘッドマウントディスプレイもあります(1面写真)。

シミュレータの開発には、コンペティションの奨励金を活用し、今年春ごろの発売を目指しています。交通や教育

運を味方に

関係の企業のほか、行政機関などに向けて売り出していく予定です。昨年はテレビ番組でも紹介され、警察や交通関係の企業などから、多くの問い合わせがありました。

「交通安全教育を普及させたいから、価格や機材など、お客さんのニーズには柔軟に対応していきたい」と三田村さんは思いを語ります。

「今までに身に付けた技術を生かすには、自分で会社を作るのが一番でした」と三田村さんは創業時を振り返ります。創業前は市外の企業に勤め、鉄道会社向けの運転シミュレータを開発していました。その後、平塚に住む親族を介護するために「介護をしつつ、平塚でできる仕事を」との思いから独立し、平成24年7月に会社を設立しました。

三田村さんは「平塚で創業することに、不安がありました」と話します。都心部と比べた時に、交通の便が悪くなることで移動に掛かる時間や営業力の低下を心配しました。実際には、同じ家賃であれば、より駅近くの物件を借りられることや、電子メールを活用した営業活動などで、「当初の不安は払拭できた」と言います。

湘南テラコッタ工房

田村5-16-26
☎55-2441

平塚で高地の花を

高山植物を平塚で咲かせたい——。

湘南テラコッタ工房を創業

した近藤正志さんは、高山植物の一つ、キバナシヤクナゲ(下写真)の魅力に引き込まれ、およそ25年前から自宅で育てています。キバナシヤク



ナゲは、北海道から中部地方までの山間地で育ち、7月、

身近な専門家がサポート

平塚信用金庫営業統括部 中小企業診断士 小池隆史さん



「お気軽に相談を」と話す小池さん

創業には大きな勇気が必要です。指導するという立場ではなく、応援していく姿勢で、経営を見守っていききたいですね。当金庫では昨年10月、市内11店舗のうち融資の窓口がある9店舗全てに、創業応援窓口を設置しました。セミナーなどは開催日が決まっていますが、創業応援窓口のように、いつでも相談できる窓口があれば、創業する方のタイミングで支援ができます。

以前は、創業の意志が固まり、融資の相談で窓口に来られる方が大半でしたので、自己資金で創業する方とは接点がありませんでした。現在では、事業のイメージづくりや発想の段階から相談を受け、創業に向けたアドバイスができるようになりました。より専門的な相談には、専門家を派遣するハンズオン支援なども行っています。相談や専門家の派遣は、基本的に無料で受けられます。

ほかにも昨年は、女性向けの創業セミナーや交流会を開き、とても好評でした。今年は、市や商工会議所と取り組んでいる創業支援事業計画を基に、セミナーを4回開催する予定です。

また、創業時には自信を持って始めた方も、思うような結果が出ない場合があります。そのような時は、ぜひお近くの「ひらしん」にご相談ください。既に創業された方に対して、経営に関する数字の管理方法や、販路の絞り込みなど、売り上げを増やすためのサポートをさせていただきます。私たちは地域に密着した金融機関です。経営支援・創業支援などのコンサルティングにも力を入れ、中小企業の皆さんを元気にしていきたいです。

問 平塚信用金庫 ☎24-3071

あなたの夢が形になる！ Hiratsukaフレッシュビジネス 認定コンペティション

中小企業診断士や大学教員、経営者らが審査するビジネスコンテストです。優秀な事業計画には奨励金を交付し、事業化や事業拡大に向けて専門家を派遣します。対象は、創業を目指す方の開発段階にある商品・サービスなどの事業計画や、創業間もない方の事業計画です。

平成25年度から始まり、初年度は8件、平成26年度は4件の応募がありました。いずれの年度も2件の事業計画を認定しています。

昨年12月25日には、平成26年度の認定式が市役所でありました。スポーツ施設やイベント運営を通じて、スポーツ振興や地域を活性化させる事業計画と、税金や社会保障などを、すくろく感覚で学ぶゲームを製作・販売する事業計画の2件を認定しました。



認定式では、事業計画の発表もありました



「三つづつ丁寧に手作りしています。いい商品を皆さんに届けた」と話す近藤さん

「ごろに黄色の花を咲かせます。温暖な平地では育てるのが難しい高山植物です。今はインターネットの通信販売で、高山植物を扱う園芸店が増え、さまざまな苗が入手できるようになりました。しかし、高山植物向けの鉢は多くはありませんでした。自分なりの栽培方法やノウハウを持った、限られた人たちが栽培を楽しんでいました。近藤さんは「簡単に栽培できる鉢を開発することで、高山植物の魅力を広めたい」と力を込めます。また、鉢を売るだけでなく、用土や水のやり

方などの貴重な情報も細かく記録し、商品化できないか模索しています。

近藤さんは、自ら開発した「狭間寸胴鉢」を、多くの方に使ってほしいとの思いから、事業計画を作成。Hiratsukaフレッシュビジネス認定コンペティションに応募し、昨年度認定されました。

「狭間寸胴鉢には、三つの特徴があります」と近藤さんは説明します。一つ目は鉢の厚さが通常の鉢のおよそ3倍もあり、断熱性に優れています。二つ目は、底が広く穴が開いているので、通気性があ



どっしりとした形の狭間寸胴鉢

完全手作りの鉢

ります。三つ目は鉢の中に水をとどめる層、滞水層を設けて冷却性を高めます。三つの特徴により根が守られ、高山植物を育てやすい鉢となっています。

「鉢の改良だけで10年近くも試行錯誤しました」と語る近藤さん。当初は、既製品の鉢に針金を通したり、穴を開けたりしていました。2年ほど前に陶芸教室へ通い、今では思い通りの鉢を作れるようになりました。

また、コンペティションの奨励金で電気釜を導入しました。以前は、外部に鉢の焼き上げを依頼していましたが、

3者で取り組む創業支援

自分で焼き上げる温度を細かく調整できるようになり、さらに良い鉢が作れるようになりました。全ての工程を近藤さんの自宅兼工房でできるようになり、本格的な販売開始に向けて着々と準備を進めています。

高山植物用の鉢は、既製品も流通しています。近藤さんも自分で購入して使ってみましたが、あまりよく育ちませんでした。その結果、「自分が作った鉢に自信を持てました」と笑顔を見せます。

狭間寸胴鉢は、春ごろの発売を目指しています。商品のバリエーションは、内径が80mmの鉢で2200円など、



「継続的な支援で創業を後押ししたい」と森川主官

「平塚の経済を元気にしたい」という思いを共有しています」と語るのは、市産業振興課の森川芳章主官。市と平塚信用金庫、平塚商工会議所が連携して、創業支援を進めています(下図)。支援内容をまとめた「創業支援事業計画」は昨年6月に産業競争力強化法に基づく認定を受けました。支援事業者は金融機関が入っているのは、県内8件の認定では、平塚と川崎だけです。「地元金融機関の積極的な

現役時代の経験から

現役時代には、藤沢市内にある軸受けの製造メーカーに勤めていた近藤さん。定年退職してから鉢の製作を本格的に始めました。狭間寸胴鉢を作るヒントも現役時代の経験から得ました。

また、退職前の10年間は、系列会社に出向して社長を務

めていました。「経営の経験があったので、創業することへのとまどいはありませんでした」と語ります。

現在の製作場所は自宅のリビングです。事業が本格化すれば、自宅の空き部屋を作業場に改装する予定です。

「定年退職した後に創業して、どこまで続けられるのか、正直不安があります」と話す近藤さん。事業が軌道に乗った段階で、ほかの企業に事業を引き継いでもらうことも方法の一つです。「自分が時間を掛けて開発した技術やノウハウが、しっかり受け継がれていけば、うれしいですね」と目標を語ります。

円に拡大③事業開始2カ月前から対象となる創業関連保証の特例が、事業開始6カ月前から対象になります。

全国へ羽ばたく企業に

さがみ縦貫道路の開通や、ロボット特区の進展など、創業を後押しする要素が平塚にはあります。市内には、大学のほか、専門学校や農業・商業・工業の職業高等学校があり、人材にも恵まれています。市内はもちろん、市外の方にも平塚で創業してもらえるよう、情報を発信していきます。

「平塚はチャンスが多く、創業しやすい場所だということのアピールしていきたい」と強調する森川主官。「支援をした会社が成功し、他社にも続いてもらいたい。平塚から全国に羽ばたくような企業が育つよう支援を進めていきます」と力を込めます。

創業を力強くサポート

それぞれの段階で、市と平塚信用金庫、平塚商工会議所が連携して支援していきます。

創業後

経営・事業拡大

ハンズオン支援や、専門家がアドバイスする起業家経営見守り事業

開業

資金面支援

Hiratsukaフレッシュビジネスの認定奨励金や創業者融資制度など

創業前

商品開発・販路開拓

Hiratsukaフレッシュビジネス認定コンペティションやハンズオン支援など

ビジネスモデル構築

創業応援窓口や創業塾のほか、各種セミナー・交流会など

